

## 冬山トレーニング：谷川岳天神尾根

◆日程 2015年12月5日(土)～6日(日)

◆メンバー L：日比野、須田(健)、猪田、田村

### 12月5日(土) 天候：晴れのち雪

山ヤにとって様々なフィールドにおける登竜門として親しまれている谷川岳だが、私は山岳会に入会して未だ行ったことがなかったが、この度やっと雪山トレーニングとして行く機会を得た。以前より、クライミングであれ雪山であれ、先ず行くべき山だと思っていたので、この度の山行を非常に楽しみにしていた。豪雪の山として知られる谷川岳だが、入山当日、まだ山麓(ロープウェイ乗り場)にはほとんど雪は積もっていなかった。暖冬の影響なのか、今年は雪が少ないなあ～と方々から声が聞こえる。通常どの程度の積雪があるのが普通なのか私にはよくわからなかったが、確かに期待していたほどではないような気がした。まずリフトで天神平までアプローチすると、20センチ程度の積雪があったようだ。ぱっと見、一面白い世界に見えるが、ゲレンデの所々に岩肌が露出しているところがある。確かにもう少し積雪がないとスキー場としては営業できないな、と思った。アイゼンワークの練習のため装着し、冬山の入門ルート・天神尾根を、歩き始める。ほとんど凍結箇所もなく、アイゼンなしで問題なく進めるコンディションである。初日の行程は熊穴沢避難小屋までなので、急ぐ必要は無い。谷川岳にはまだ十分な積雪はないという情報のせいか、他の登山者の姿も少なかったように思う。とはいえ、ステップはしっかり残っていたので、そのトレースに沿って歩行してゆく。久しぶりの雪山の感触に感動しながら歩を進めていくと、いつの間にか今夜の宿泊場所の熊穴沢避難小屋に到着した。先客はまだ居ない。当初は避難小屋の前にテントを張る予定にしていたが、小屋にも他の登山客が居なかったため、小屋に泊まることとした。



CT：町田発(8:18)、水上IC(10:52)、谷川岳ロープウェイ駐車場着(12:00)

天神平駅発(13:15)－休憩(13:42～13:50)－熊穴沢避難小屋着(14:18)

### 12月6日(日) 天候：雪

朝5時から行動開始を目標に、4時に起床。昨夜から雪がずっと降り続けていたようで、まああの積雪。途中、下山してくる登山者に話を聞いたところ、新雪がかなり積もったようでワカンがないと進めないと判断して戻ってきたところだ、とのこと。我々はワカンを装着して



いたので、積雪が期待出来そうだ！と、このまま進んでいく。高度を稼いでいくと、次第に雪が深くなってきた。ここで、いよいよ(待ちに待った)人生初のラッセルタイムである。諸先輩方が交代でステップを踏み固めて進んでいく。そのうち私にも順番が回ってきて膝丈ほどの積雪の上を膝で雪を押し固めて進む。傾斜がきつく、腰の高さくらいある雪面も有り、なかなかきついラッセルである。うまく進めないで、

四つん這いになって雪の中でじたばたもがく。なんだかその様がおかしく、私は何をやっているのだろうと苦笑しながら人間の無力さを痛感しつつも、「これが雪山なんだ～」と感激してもいた。

山頂付近になると、新雪の柔らかい感触はなくなり、少々凍結している箇所が目立ってくる。ワカンの2本の歯をうまく使ってなんとか登ってゆく。



山頂から目と鼻の谷川岳肩の小屋近くの道標をバックに吹雪激しい中、記念撮影。風も強く、ホワイトアウト寸前で、数メートル先が真っ白だった。山頂はすぐこそのはずなのに、全く見えない。自分たちのステップが消えないうちに下山した方が良いだろうと言うことで、早速下山に取りかかる。雪山はとても美しいが、一転して凶暴に自然が荒れ狂う様はそのコントラスト効果もあってだろうか、心底恐ろしく感じる。さっきさんざん苦労して踏み固めたはずのステップだったが、あっという間に新雪がどんどん覆ってゆく。スピードを上げてなんとか避難小屋まで下山する。ちょっと一息である。デポしていた荷物をまとめて、下りはアイゼン無しでスキー場まで下山する。何度か滑って転びながら、無事に下山完了。初めてのワカン歩行、ちょこっとラッセルを経験することができ、山頂付近ではあわやホワイトアウトという冬山の恐怖を少しだけ味わい、多くの経験を得ることが出来た山行だった。今後も谷川岳にはことある事にお世話になるだろうが、今後もお手柔らかに受け入れていただきたい。帰りはみなかみ温泉で身体を温めて、横浜への帰路についた。



CT：起床(4:30)－避難小屋発(6:22)－肩の小屋(8:50)－熊穴沢避難小屋(9:40～10:20)－ロープウェイ天神平駅(10:57～11:04)、駐車場発(11:56)

(記：田村)